



おじさんズ通信

2021年1月号

発行元：登別市新生町4丁目桃柿通
緑風舎

発行者：おじさんズ3号

2021年、ムチュウの旅へ

2021年、令和3年の幕があげました。皆様、穏やかな元日を迎えられたでしょうか。昨一年は、世界を覆いつくしたあの感染症と、決してお近づきにはなるまいと、身も心も巣ごもり状態の年でした。

さて、本年は心機一転、ない知恵をふり絞り、何かに夢中になる、それも欲を張って二つ、三つの何かに挑戦しようと、張り切っております。行動可能半径は、引き続き厳しくなるでしょうが、そこは持ち前のチマチマ精神で前進、また前進！

本年も、「おじさんズ通信」によろしく、お付き合いください。

おじさんズ3号



国策映画脚本募集

～映画雑誌にみる戦争協力～

二十代前半の女優、高峰三枝子の笑顔が表紙を飾る昭和16年の映画雑誌「新映画」10月号。写真入りの映画紹介や映画広告に続いて、記事本編の冒頭に現れたのは「**メ**切切迫す！ 国策映画脚本募集」の宣伝文句だ。



求めるテーマは何かというと、「一、軍事映画。現地に於ける我が将兵或は宣撫班等の活躍を描き以て銃後国民生活の自覚を昂める如きもの」。

以下、防諜、時局下の新生活体制など七つの主題を挙げて

いるが、主催はなんと日本映画雑誌協会。入選作の選者はというと溝口健二、小津安二郎、山本嘉次郎等に続いて情報局情報官三人も名を連ねている。

この頃になると、グラビアにはドイツ大使館でヒトラーの肖像画を前に、松竹キネマからの贈り物として刺繍で描いたヒトラーの像を田中絹代が代表してオットー大使に手渡し写真が載せられている。（「映画旬報」昭和16年6月11日号）。まだ救われるのは、この号の表紙裏面広告にレオ・マッケリー監督のアメリカ映画「邂逅 めぐりあい」や「ジェロニモ」といったアメリカ映画の広告が掲載されていることだ。

しかし、2カ月後の「新映画」8月1日号には「検閲の窓から 日本映画界について(完)」のタイトルで、映画検閲官の座談会記事が6ページにわたって堂々と載せられている。真珠湾攻撃が4カ月後に迫る中、軍部をはじめ国家権力は映画業界ばかりでなく、あらゆる表現の自由世界の手足を縛り、戦争の道へと人々を駆り立てていった。

戦後、銀幕の世界を華やかに彩ってきた映画人たちが戦時中、軍事国家に協力していったもう一つの顔を持つことに、団塊世代の私は驚いた。この雑誌を読むまでは、田中絹代や横に並ぶ高峰三枝子、名監督らは、いつまでも民主主義を象徴する良心的な人々だった。

別に彼らを責めている訳ではない。かくも簡単に戦争遂行の宣伝材料に映画人たちを駆り出した軍事国家の、教科書では感じえない



い恐ろしさや行状に憤りを覚えるのだ。

同時に、こうした雑誌が残され、言論や表現のあらゆる自由が奪われた冬の時代があったことを、のちの人々に伝えていることに、ある種の安ど感も覚える。

6冊ある日米開戦前夜の映画雑誌は、訳あって預かることになった室蘭のU氏(故人)が残した「キネマ旬報」シリーズの中にあつた。戦後に発行されたものは、「登別映像機材博物館」に陳列させてもらっているが、戦中ものだけは、装丁し直す予定で自宅に置いた。U氏が残した映画雑誌の中で、昭和20年以前のもものは、この6冊だけ。

日本国民がみずからの手で勝ち取ったわけではない戦後民主主義。昨年の学術会議問題や検察庁法案、そして安倍元総理が118回の嘘記録を残したサクラ疑惑などを思い起こすと、

「空気のごとく、至極当たり前に享受している『自由』。それを奪う暗黒の時代は二度と来ないと、言い切れるか」映画雑誌が、そう問い掛けている。

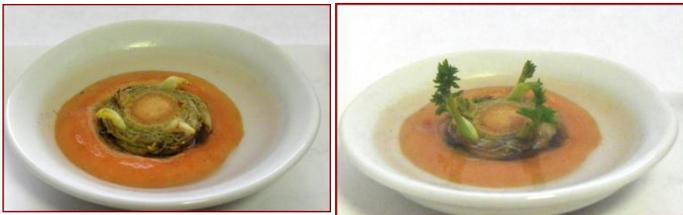
ムチュウの旅・其壱

見よ、この生命力！

家内が「ほら」と持ってきたのは、水入りの小皿に載せた人参と大根の切株。12月半ばに別の人参の切株で水耕栽培にトライしたが、毎日の水やりを忘れたために、すっかりしなびてしまい、第2号からの再挑戦と相成った。

栽培と同時に成長過程を写真に収めようと、毎朝、ほぼ定時にシャッターを切っているが、最初は両手でカメラを構え、撮影したため構図はバラバラ。これではならじ、と紙の焼酎パックで手作りの台をつくり、できる限り定点撮影に近づけた。

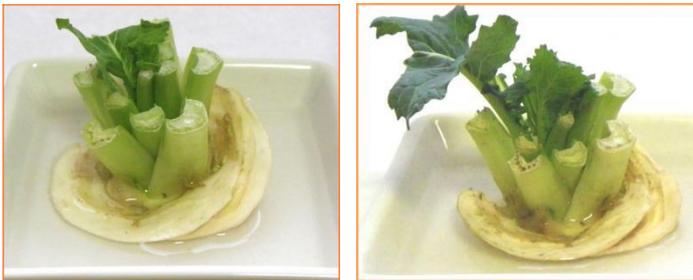
して、その人参、大根の Before、After は、以下の写真の通り。



令和2年12月29日
3本の葉の丈はわずか



令和3年1月5日
葉は15ミリに成長



令和2年12月29日
濃い緑葉が奥に顔を



令和3年1月5日
奥の葉は正に成長株

この先、どこまで成長するやら。ど根性大根・人参との、長い戦いになりそうだ。

ムチュウの旅・其弐

「北海道幌別漁村生活誌」アップ完了

登別市立図書館のホームページ（HP）改造支援に合わせて追加のお許しを得た「市民活動サポーターおすすめ郷土資料」コーナーに、佐藤三次郎の「北海道幌別漁村生活誌」のテキストデータ打ち込み作業が完了。1月1日のHP更新に合わせて、アップロードしてもらった。

「おじさんズ通信」の前号でも触れたが、同著は渋沢栄一の孫・渋沢敬三が主宰していた「アチック・

ミュージアム」の彙報第十九として刊行された。アチック・ミュージアムについては、佐野真一の「宮本常一と渋沢敬三 旅する巨人」に詳しく紹介されている。

勉強を兼ねたテキストデータの入力作業で、結構難儀したのが旧字体、異体字への変換作業だった。できるだけ、原文に沿った漢字を打ち込もうとした結果、かなりネット検索のお世話になった。

驛 國 餘 圖 播 蔬 碧 潭 名稱 簡單 畫
猶 豫 想 乍 然 絶 對 的 關 於 傳 説 淺 瀨 瀨 瀨 瀨
び 増 し 茲 に 聲 を 發 し 鏘 然 金 鑲 憶 歸
る 回 殘 高 價 續 出 圍 歸 分 擔 點 溯
青 銜 (くわ) 爐 舊 鈎 籃 氣 大 學 狀
纜 檢 霽 (は) 巢 大 將 蚤 淺 濕 經 斷
樂 根 據 盡 旁 滿 觸 齒 殘 膽 振 齊 畫
覺 藝 片 假 名 雜 尫 (むく) 缺 ける 畫 二 画
跛 熬 (いる) 繪 區 切 り 強 戰 爭

これらの文字を辞書と首っ引きで調べていたら、作業はいつ終わるやら。ネット検索の功罪は多々あれど、文字コードUTF-8の登場で、随分、助かった！



しなびても
もぐな落とすな 冬柿は
飢えたるひよの腹を満たせよ
小町音

薫風 烈風

▶ 「ムチュウの旅・其参」は、「文芸のほりべつ」関係。誌齢40号とあって、記念の企画執筆を仰せつかった。図書館に通い、ガリ版印刷の第1集（昭和47年12月発行）から39号までの表紙写真を撮ったり、中身を調べたり、これまたチマチマ題材集め続行中。もう一つは、40号への創作投稿。テーマは決まっているが、プロットがねえ～。

▶ お酒を飲まない翌朝は午前4時に起床。何たる、よみ子の目覚めかな。ラジオをつけたら法政大学総長の田中優子氏が、コロナ時代の処世術を説いていた。とりわけ耳に残ったのは、日本の食料自給率。なおざりにしてきた農業政策のツケが廻ってこないか、心配だ。

▶ では皆さん、本年もよろしく。